

1-3 環境グランドデザイン

NTT西日本グループでは、低炭素化社会の実現と、循環型社会の形成に向けて、特に電力削減量目標と紙使用量削減目標ならびに廃棄物最終処分率目標を「環境グランドデザイン」として策定し、経営幹部を含めた体制のもと実行管理を行っています。

環境グランドデザインの2020年度目標については下記の通りです。

温暖化対策

2010年度と比較し、2020年度には
自責電力を40%以上、
総電力を20%以上削減

(参考)

2010年度の自責電力は15.6億kWh
総電力は21.08億kWh

紙資源削減

2008年度と比較し、2020年度には
総紙使用量を40%以上削減

(参考)

2008年度の総紙使用量は3.99万t

2008年度と比較し、2015年度には
一人あたりの事務用紙使用量を
50%以上削減。

(参考)

2008年度の一人あたりの事務用紙
使用量は0.99万枚

廃棄物削減

2020年度には全廃棄物合計の最終処
分率を1.0%(ゼロエミッション^{※1})に

(参考)

2008年度の最終処分率は2.1%

撤去した通信設備廃棄物については、
最終処分率0.1%を維持

※1 国連大学が提唱した構想で、産業から排出される全ての廃棄物や副産物が他の産業の資源として活用され、全体として廃棄物を生み出さない生産をめざそうとするもの。NTT西日本グループでは、最終処分率1.0%以下をゼロエミッションと定義。

環境グランドデザインで掲げた目標を達成するために様々な取り組みを実施していきます。

電力使用量削減

NTT西日本グループでは、温室効果ガス排出量に影響を与える電力使用量削減に向けて、下記の5本柱の取り組みを推進していきます。

レガシー系設備等のスリム化

旧型交換機から新型交換機への更改を推進する。通信機械室における空調の最適化を実施する。

IP系装置の省エネ開発

省エネタイプのIP系装置を開発し、導入を推進する。

空調更改・効率化開発

現在稼働中の老朽空調の更改及び、室温管理の徹底による空調効率化運転を実施する。

エコオフィス推進

エアコン温度の適正化、照明照度の適正化、不要照明の間引き等オフィス内における節電の取り組みを推進する。

新技術の採用

太陽電池・燃料電池等の再生可能エネルギーや、HVDC(高電圧直流給電)、Smart DASH[®]※2(データセンタ向け空調自動制御システム)等の省エネ技術を活用する。

※2 「Smart DASH[®]」はVigilent社の登録商標であり、NTTファシリティーズ社はVigilent社の代理店です。

紙使用量削減

NTT西日本グループが使用する紙には、主に事務用紙、請求書、電報、電話帳があります。特に電話帳による紙の使用比率は大きいため、電話帳の回収徹底や、古紙配合率向上等の紙削減に向けた取り組みを今後も継続して行っています。

また、事務用紙についても、両面・集約印刷の徹底や複合機の適正配置等により、削減に向けた対策を継続して実施していきます。

廃棄物削減

NTT西日本グループが排出する産業廃棄物には、不要となったパソコンや什器類のオフィス廃棄物、通信ビルや事務所等の建物撤去に伴う建築工事廃棄物、管路やとう道の工事に伴う土木工事廃棄物、通信ケーブルや交換機撤去に伴う通信設備廃棄物があります。これらの廃棄物については、リユース・リサイクルの徹底や現場担当者への環境教育等を実施することで、最終処分率^{※3}のさらなる低減に向けた取り組みを継続していきます。

※3 最終処分率:最終処分量/総排出量で算出され、最終的に埋立処理された比率を表す。